

会場で直接いただいた質疑の概要

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

●ご質問が刈羽会場と柏崎会場のどちらでいただいたものかを、で表記しています。

《福島第一・第二原子力発電所の状況について》

ご質問：東電から聞いた事実から推測すると、80トンの燃料が空だきになって融けるのは2800℃で、鉄が融けるのは1500℃ということだが、融けた燃料が圧力容器の底に落ちたということは、短時間でそっくり底が抜けたということではないのか。

回答：データを解析した中で、融けた燃料が原子炉圧力容器の底から抜けるというのはいり得ることだと思いますが、原子炉底部の温度計の値や水の挙動などから、穴は開いているかもしれませんが、底がそっくり抜けている状態ではないと推測しています。アメリカ・スリーマイル島の事故時も空だきになって燃料が融けましたが、底部は貫通していませんでした。

ご質問：(先ほどの回答で) 事故は地震・津波によるものと言ったが、とても驚いた。この考え方はいかななものか。また、運転員の操作が適切であったが、運転員に責任を転嫁するつもりなのか。

回答：運転員への責任転嫁とは、まったく逆の考えです。運転員はあの厳しい状況の中でも、きちんと操作をしています。しかし、当事者が一生懸命やったというのでは説得力に欠けるので、第三者の評価に委ねたいと申し上げたものです。

《放射性物質の漏えい関連について》

ご質問：今日の説明資料を見ても、東電の隠蔽体質が変わっていないのがわかる。モニタリングの線量推移値も一番小さい値を使っているが、周囲にはもっと高い値を示す地域もある。これでなぜ安定したと言えるのか。すべてのデータの公表を求める。

回答：すべての交流電源を失い、8台あるモニタリングポストの値が採れない状況であったことから、早い時期から正門と西門の2カ所でモニタリングカーにてデータを採取し、そこでのデータを使っています。それ以外のデータもあるものはもちろん全て公開したいと思います。ただし、人的・物的能力の制約により、全てのエリアについて測定しきれいていませんので、地元の自治体や他の電力会社等の力も借りながら、得られたデータ等を公表しているところです。

ご質問：内部被ばく者が多数発生しているとの報道もあるが、何か発表していない大きな問題があるのではないか。

回答：外部被ばくはAPDという線量計で、内部被ばくはWBCという測定器で測定するもので結果が出るまでに時間がかかります。内部被ばくと外部被ばくはある程度、相互関係があり、内部被曝だけが多くなるということは考えにくいということになります。なお、外部被ばくが100mSv（ミリシーベルト）を超えたのは30名で、そのうち当社社員が27名です。

《柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について》

ご質問：消防車や電源車を配備したと言うが、その能力は既設の設備と比較して十分に足りているのか。

20分の1～100分の1程度の能力ではないのか。東電は福島は何万人もの一般の人を排除した犯罪組織であり、加害者としての自覚はあるのか。また、柏崎刈羽原子力発電所のベントの補強は、柏崎刈羽に放射能をまき散らす宣言ではないか。一体どうやって地元の了解を得るつもりなのか。刈羽会場

回答：今回説明した対策は、炉心を損傷させることなく水位を保つためのものです。まずタービン駆動の冷却システムが8時間動きます。その後、例えば必要な水は毎時約30立方メートルですが、消防車の注水能力は毎時60～120立方メートルあり、柏崎刈羽で現在運転中の4プラントと定期検査中の3プラントに対しては5台の消防車で賄えると考えていますが、さらに予備も含めて8台あります。

電源車は非常用ディーゼル発電機に置き換えて残留熱除去系のポンプなどを動かすというのではなく、代替注水のポンプに電源を送るというものです。電源の容量も含めて国の検査を受け、妥当と評価いただいています。

ベントにつきましては、炉心が損傷する前に圧力を逃すことにより、原子力災害を防ぐという観点から、非常時には早期に実施する必要がありますが、その場合の被ばく量は非常に低いレベルであると考えています。

ご質問：2009年に貞観地震による津波の指摘がありながら、東電はそれを棚上げした。もっと対策を考えていたら、今回もここまでの事故にならなかったのではないか。指摘を無視した人災である。柏崎刈羽で基準地震動（Ss）を策定する時も同じで、佐渡海盆東縁断層について小委でまとまらずに両論併記になったにもかかわらず、“知見の拡充”とって無視してきた。柏崎刈羽は本当に安全なのか、Ssを改めて策定すべきではないか。刈羽会場

回答：貞観地震が研究者の中で話題になっていることは承知していますが、この地震の程度や規模、波源などについては色々な意見があり、確定したものがなく、今後検討していくこととなります。柏崎刈羽においても知見の拡充をはじめ、今回の津波も踏まえて検討してまいります。

ご質問：想定外のことが起こったのだから、F-B断層を評価するときに棚上げしていた佐渡海盆東縁断層についても基準地震動（Ss）に考慮すべきではないのか。柏崎会場

回答：今後新しい知見を幅広く収集していく中で検討してまいります。

ご質問：津波は地震だけでなく隕石でも起こりうるが、想定しているのか。柏崎会場

回答：津波は海底火山、地すべりでも起こりますが、巨大な津波についてはプレートの動きによるものと考えており、隕石までは考慮していません。

ご質問：発電所は防潮堤で守られるかもしれないが、その周囲の荒浜・大湊は大津波が来たら住民はどうなるのか。柏崎会場

回答：防潮堤は、柏崎刈羽が今回の福島のような原子力災害を起こさないためのものです。防潮堤を造ることによる周囲への影響も今後検討いたします。

《その他全般について》

ご質問：津波対策ばかり説明するが、そもそも地震で配管が壊れたのではないか。また、新潟県中越沖地震後に柏崎刈羽7号機のインターナルポンプの分解点検を1台しかやらないのはおかしい。全台点検すべきだ。柏崎会場

回 答：インターナルポンプは全台で目視点検や作動試験を実施し、異常はありませんでしたが、念のため3台を分解点検し、異常がないことを確認しました。

ご質問：国や東電はなぜ2ヶ月もメルトダウンが分からなかったのか。そのような技術力で運転してもいいのか。すぐに分かる技術力をつけて欲しい。柏崎会場

回 答：解析により炉心の損傷状態を評価していますが、解析に必要なデータが揃うまでに時間がかかりました。さらに詳細な評価を行っていきます。

ご質問：メルトダウンについて今頃発表するのは疑問である。情報の透明性が不足している東電の風土の問題だ。それが周辺住民を着の身着のまま避難させ、生存権を奪っている。柏崎会場

回 答：避難されている方には心からお詫びします。避難に関する情報の伝達については、今後よく検討してまいりたいと考えています。

以 上